



研究室だより、院生業績一覧、修士論文題目、執筆者紹介

著者	同志社社会学研究学会
雑誌名	同志社社会学研究
号	11
ページ	83-88
発行年	2007-03-31
権利	同志社社会学研究学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000011993

研究室だより

社会学部社会学科（学部）、社会学研究科社会学専攻（大学院）になり、早や2年が経ちました。文学部時代とどこことなく雰囲気の違いの違う社会学部生も2年生となり、教員も多くの制度変更と新しいケースへの対応で、あっという間の2年間でした。大学院では社会学研究科社会学専攻第1期生として博士前期課程の院生が2007年3月に巣立ちました。2007年度は社会学部生が3年生に上がり、新4年生は最後の文学部生となります。

大学院では初めて論文提出による、いわゆる論文博士として野々山久也先生が、博士論文を提出され、重厚な研究成果に対して学位が授与されました。本号で書評として掲載されている本は、この博士論文をもとに東大出版会から近刊されるものです。また博士前期課程では5名が修士論文を提出し、修士号が授与されました。

教員は2004年度秋からスタッフが少人数体制から9人体制になり、研究・教育のために学外で研鑽に積む機会をもつことが可能となりました。鯨坂学先生は2006年2月から2006年9月までの7ヶ月間英国ケント大学でご研究に励まれ、無事、ご帰国されました。また尾嶋史章先生は2006年4月中旬から2007年4月中旬までイタリアのヨーロッパ大学の研究プロジェクトメンバーとしてご活躍され、間もなくご帰国の予定です。そして2007年度は立木茂雄先生が4月から1年間、内地留学され、藤本も同じく4月から1年間、スタンフォード大学で精進する機会を与えられました。大学の国際化を具体的に推進し、研究・教育に寄与できるよう、今後も教員一同努力して参りたいと存じます。

また博士後期課程の院生には、大学院を修了と同時に就職が決定するという幸運に恵まれる者たちがおり、他にも任期付きのポストも含めると順調に進路が開かれております。他大学の先生方から本学出身者に機会を与えて頂き、心より感謝致しております。

（藤本）

2006 年度 院生業績一覧

博士課程（後期課程）

中村 圭

【査読付論文】

「京町家の文化変容」（共著）『言語文化学会論集』第 27 号：p 145-161（言語文化学会）

【研究ノート】

「現代中国の“跳槽”現象に関する一考察——中国沿海都市部に住むある女性のライフヒストリーを通して」2007 年 3 月『同志社社会学研究』第 11 号

【学会報告】

「北京・胡同・護美」（映像作品）共同報告 2006 年 6 月 第 40 回日本文化人類学会『映像でみる世界の文化』映像人類学上映会（東京大学）

「「京町家」の変容に関する社会学的考察」共同報告 2006 年 10 月 第 79 回日本社会学会（立命館大学）

【研究報告】

「現代中国“跳槽”之経済社会学研究（現代中国“跳槽”に関する経済社会学的研究）2007 年 2 月 中国社会科学院経済研究所（中国社会科学院 中華人民共和国）

【その他・教材執筆】

北京語言大学インターネット教育学院日本語専攻「日本語作文 2（アカデミックライティング）」教材執筆（中国）

越智 祐子

【査読付論文】

「『災害時要援護度』概念の構築——ハザードと脆弱性の相互作用を可視化する」（共著）2007 年 2 月『減災』2

【紀要論文】

「『災害時要援護度』概念構築の試み——台風 23 号水害時における在宅人工呼吸器装着者の災害リスク回避行動の分析から」（共著）2006 年 11 月『評論・社会科学』81：p 19-39

【学会報告】

「社会的脆弱性可視化の試み——災害時要援護者対応を事例として」共同報告 2006 年 5 月 第 57 回関西社会学会（金沢大学）

雨森 聡

【報告書】

「地域移動による不適応——地域活動は不適応を軽減するのか」2007年3月『新しいコミュニティの構
想 2006年兵庫県民調査報告書』（平成16年度～平成19年度科学研究費補助 [基盤研究 (B) (1)]
研究成果報告書 研究代表者：鶴飼孝造)

西丸 良一

【紀要論文】

「大学受験における浪人の効果——計量分析を用いて」2007年3月『佛大社会学』31号

【報告書】

「教育達成とネットワーク——子どもへの中学受験に社会資本は影響するか」2007年3月『新しいコ
ミュニティの構想 2006年兵庫県民調査報告書』（平成16年度～平成19年度科学研究費補助 [基盤研
究 (B) (1)] 研究成果報告書 研究代表者：鶴飼孝造)

【学会報告】

「教育達成における国・私立中学校の効果」2006年8月 第65回日本教育学会大会（東北大学）

山本 圭三

【報告書】

「若年におけるフリーター・正社員の内部の差異」2007年3月『新しいコミュニティの構想 2006年兵
庫県民調査報告書』（平成16年度～平成19年度科学研究費補助 [基盤研究 (B) (1)] 研究成果報告
書 研究代表者：鶴飼孝造)

【学会報告】

「現代大学生の職業選好——島根大学調査から」2006年5月 第57回関西社会学会（金沢大学）

「現代大学生のフリーター化に関する要因の再検討」2006年10月 第79回日本社会学会（立命館大
学）

博士課程（前期課程）

伏見 ゆず

【学会報告】

「参加型自主管理労働の可能性と限界——福祉系ワーカーズ・コレクティブにおけるメンバー像」2006
年5月 第57回関西社会学会大会（金沢大学）

ニコール・コマファイ

【学会報告】

“Filipino Identities in Flux : Catholic Church and Adopted Country” 2006年4月 Anthropology of Japan in

Japan (Spring Workshop) (同志社大学)

“Social Integration of Filipinos in Japan : The Case of Kyoto Pag-asa Filipino Community” 2006年5月 Japan Studies Program Summer Conference, Ateneo de Manila University

「在日フィリピン人とカトリック教会——京都市中京区西院教会を事例として」2006年5月 第57回 関西社会学会 (金沢大学)

「フィリピンコミュニティとカトリック教会——京都パグアサフィリピンコミュニティを事例として」 2006年7月 第11回フィリピン研究会全国フォーラム (中京大学)

白川 俊之

【報告書】

「社会活動における女性の参加者層——教育の地位表示機能を手がかりに」2007年3月『新しいコミュニティの構想 2006年兵庫県民調査報告書』(平成16年度～平成19年度科学研究費補助 [基盤研究 (B)(1)] 研究成果報告書 研究代表者：鶴飼孝造)

2006 年度 修士論文題目

氏 名	論 文 題 名
ニコール・コマファイ	日本におけるフィリピン移民の教会とコミュニティ ——京都パグアサフィリピンコミュニティの事例から——
伏 見 ゆ ず	福祉系市民活動の特徴と課題 ——活動の意義と共有をめぐって——
原 田 あい子	子どもの生活と意識について ——生活満足度の視点から——
多 喜 弘 文	階層志向のエートス ——現代社会において人びとを階層志向に向かわせる実践的 起動力とは何か——
古 澤 慎 介	現代日本社会におけるナショナリズムの社会的プロセス ——国際比較・世代間比較に見る特徴——

執筆者紹介

Bruce WHITE

世代の変化、国家主義と国際主義、社会変化とグループ・アイデンティティ
bwhite@oicd.net

板垣 竜太

朝鮮近現代社会史、植民地主義
ritagaki@mail.doshisha.ac.jp

中村 圭

現代中国社会研究、経済社会学、国際社会学
kayz@mbj.nifty.com

小林 久高

社会意識論、政治社会学、理論社会学
hkobayas@mail.doshisha.ac.jp

河口 充勇

華人社会研究、グローバリゼーション論
mkawaguc@mail.doshisha.ac.jp

立木 茂雄

家族社会学、市民社会論、防災学
tatsuki@gold.ocn.ne.jp

(執筆順、所属は2007年3月31日現在)